

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	6	担癌状態の乳癌患者に対し、調整卵巣刺激を行って採卵することは推奨されるか？
P	術前化学療法前の乳癌患者に調整卵巣刺激を行って採卵したことが、その後のがん治療と予後におよぼす	
I	調節卵巣刺激による採卵	
G	治療前に妊孕能温存を選択しなかった乳癌患者	
臨床的文脈	術前化学療法の対象となることからStageⅢまでに限定。Stage IV や再発症例は含まれない。	

O5	エストロゲン値の上昇
非直接性のまとめ	術前化学療法導入前の乳癌患者40人で採卵時期の違いによるE2値の差を比較した1件のケーススタディを評価したため、採卵をしなかった群との比較ができない。
バイアスリスクのまとめ	1件のケーススタディを評価したが、術前化学療法対象症例のため、バイアスリスクは小さい。
非一貫性その他のまとめ	1件のケーススタディを評価したため、非一貫性はない。
コメント	40歳以下、ステージⅢAまで、ホルモン受容体陽性、術前化学療法導入前の乳癌患者40人で採卵時期の違いによるE2値の差を比較した研究。COS開始時の月経周期(phase)によるE2値、採卵回数、凍結受精卵回数には有意差なしという結果。

O6	費用
非直接性のまとめ	
バイアスリスクのまとめ	
非一貫性その他のまとめ	
コメント	評価した論文なし

O7	癌治療開始までの期間
非直接性のまとめ	術前化学療法前の乳癌女性に対する採卵の有無で比較した1つのコホート研究(43歳未満)、と、1つのケースコントロールスタディ(18~45歳まで)を評価した。ともに介入方法には問題はない。
バイアスリスクのまとめ	術前化学療法対象症例のため、バイアスリスクは小さい。
非一貫性その他のまとめ	2件とも、採卵から治療開始までの期間を2群間で比較検討できており、いずれも40日前後で一致するため、非一貫性はないと考えられる。
コメント	2件の筆頭著者は、共著者同士である。

O-	
非直接性のまとめ	
バイアスリスクのまとめ	
非一貫性その他のまとめ	
コメント	